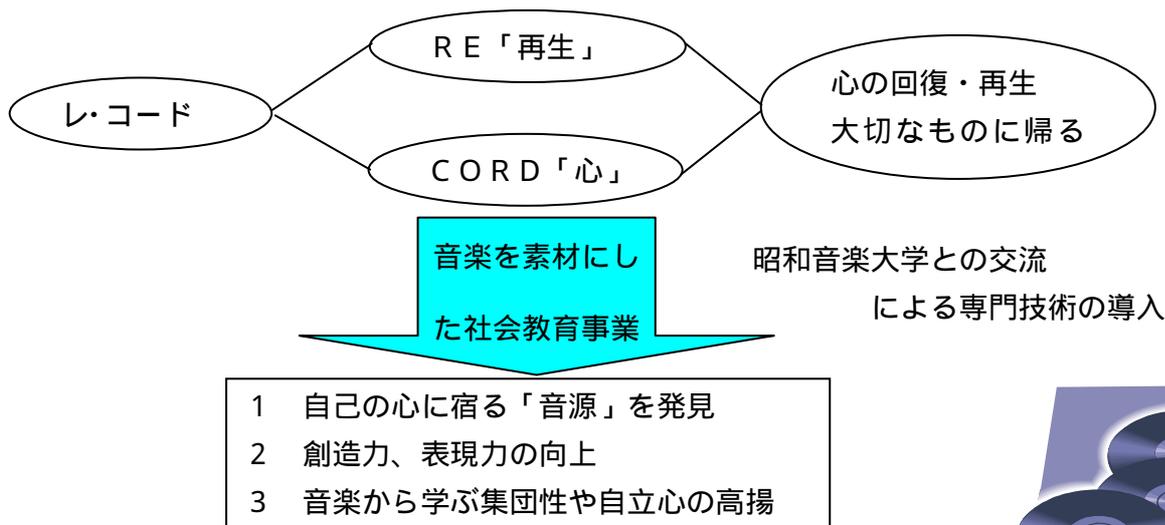




音楽創造体験事業

1 町づくりの発想を子どもたちへ

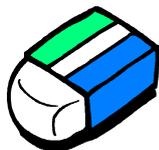
新冠町の町づくり 『レ・コード&音楽による町づくり』



2 音楽創造体験事業

1) 事業形態と内容(学校主体の取り組み)

- ・町内小学校を対象とし、学校の授業の一環として取り組む(15時間程度:年5回)
- ・ひとつのテーマをもとに、子供たちが創造する「言葉」や「音」を様々な楽器や道具を用いて引き出し、音楽(曲)としてまとめあげる。



平成15年度:ふるさと絵本「ハルニレから聞いたお話」
 平成16年度:ふるさとにいかっぶの風景
 平成17年度:心のふるさと 小学校 ~各小学校の独自のテーマ~

空き缶でマラカス、スプーンと消しゴムでカスタネットを作成リズム遊び
 テーマから連想する「言葉」や「音」を出し合い、簡単なリズムをつけてみる。
 手作り楽器と音のでるものを使ってリズム合奏に挑戦。合奏の難しさや達成感を体験し
 グループごとに創造した曲に先生が指導を加え、どう修正していくか話し合う。
 出来上がった曲を発表しあう。
 グループごとに発表会を想定した総合練習。リズム指導
 各学校で地域の方々を招いての発表会、レコーディング。CD作成



各授業、発表会の場面では、地域のお年寄りから昔の新冠の様子をお話していただきます。

2) 講師 : 昭和音楽大学 サウンド・プロデュースコース講師 益田トツシュ氏

〔浜崎あゆみ、ケミストリーの編曲やレコーディングに携わる〕

講師の授業の特徴

子供のイメージや表現力を大切にする
答えを用意して授業に臨まない
目的達成が目的でなく、その過程を大切にする
自らの専門性を子供にわかりやすく伝える

3) 事業実施の成果と効果

- ・小規模校は、全校での取り組みとなり、協調性や協力体制が見受けられた。
- ・自らが生まれ育った「にいかっぴ」を再確認することができた。
- ・芸能界で活躍する講師と関わることにより、緊張感と期待感の中で授業が進んだ。
- ・上記ワークショップ手法により、自由な独創性を活かした姿の中に、集団で取り組む協調性と発表会の取り組みでの達成感や責任感が見受けられた。
- ・各学校の協力と理解により、学校教育ではない事業を学校内で児童に体験してもらえた。
- ・作詞作曲した作品を発表しCD化になったことにより、音楽による町づくりを子供たちに体感してもらえた。

4) 事業実施の上での課題

事業実施には、学校の理解と協力が不可欠。

学校主体で事業を実施するが、教育委員会のサポート体制が必要。

(学校の年間カリキュラムに加えての取り組みとなるので、協力体制が必要)

- ・学校長への事前説明 実施確認
- ・講師と担当教諭、教育委員会の事前打ち合わせ
- ・進捗状況の確認と協力



5) 本事業以外での、学校との連携事業

各小学校での高齢者大学の開催(空き教室利用と児童とのふれあい)

中学校への吹奏楽クリニックの提供(昭和音楽大学交流事業)

小学校へのパソコン教室の提供(ネットの危険性とマナー)

学校図書室の活性化事業(図書プラザ蔵書の学校への提供)

学校でのアウトリーチコンサートの開催(昭和音楽大学交流事業)

中学校での講演会の開催(テーマ:スポーツと挫折からの夢の実現)

社会教育の人脈や予算を有効に学校教育現場に活用していただいていることにより、児童生徒により良い形で事業を提供できている。

社会教育職員が児童生徒と関わりをもつ機会が多いため、健全育成にも役立っている。